



春の強風に備え随時ハウスを点検し、ハウスの損壊や被覆資材の破損等が見られたら、すぐに修繕をしましょう。

仙台管区气象台発表（2月29日現在）の1か月予報は、「平年並か高い見込み」となっています。今後、天候の急変に対応した温度・水分・光条件による育苗管理を心がけ、生育の揃ったがっちりとした苗づくりに努めましょう。

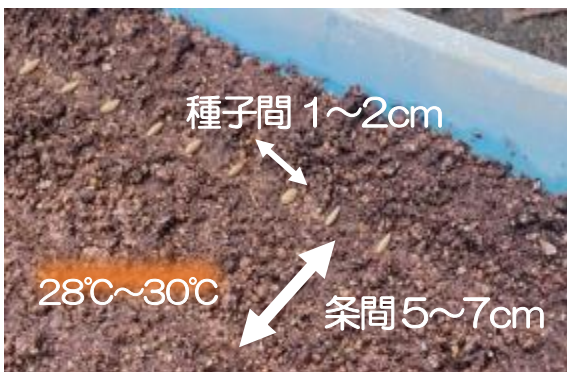
## 育苗ハウスの準備

- ① 害虫の住処となるハウス内外の雑草や作物残渣の処理をしっかりと行う。
- ② 播種床の電熱線は  $80W/m^2$  とする。必ず電熱線の通電を確認し、播種予定の 2~3日前から通電して地温を上げておく。
- ③ 温度の伝わり方にムラが生じないように、播種床全体に灌水をしておく。
- ④ 苗に直接冷気を当てないように、ハウス出入り口や側面に内張りカーテン等を設置する。

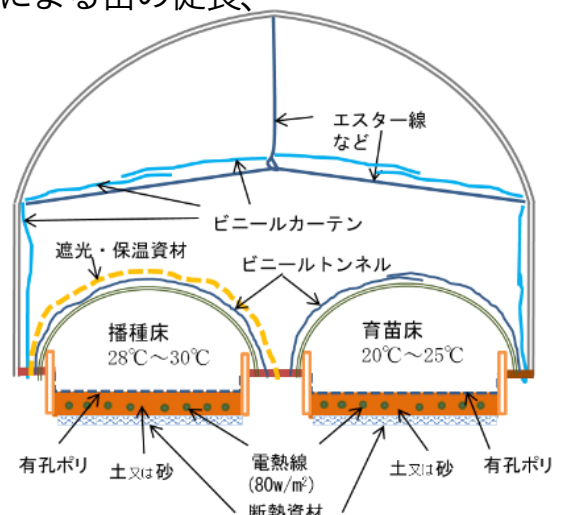
## 播種～発芽までの管理 発芽を揃えよう！

- ① 培養土を詰めた播種箱に十分灌水しておく。
- ② 培養土にサーモスタットセンサーと温度計を挿して温度管理の準備を行う。
- ③ 培養土に約5cm間隔に、深さ1cm程度の溝を作り、種子間2cm程度で播種する。  
**×** 狭いと鉢上げの際に根を切ってしまうため注意！
- ④ 覆土は播種の溝が埋まり、軽く鎮圧して高さが一定になるように行う。  
**×** 深すぎると過湿による生育不良、浅すぎると種皮の外れが悪くなるため注意！
- ⑤ 播種後の播種床は発芽の適温  $28\sim 30^{\circ}C$ を維持して発芽揃いを良くする。
- ⑥ 遮光資材や保温資材を利用し、急激な温度変化を防ぐ。

※灌水ムラによる育苗用土の乾燥、高温や過湿による苗の徒長、**↓播種床と育苗床の構造**  
高温による葉焼け等にも注意する。

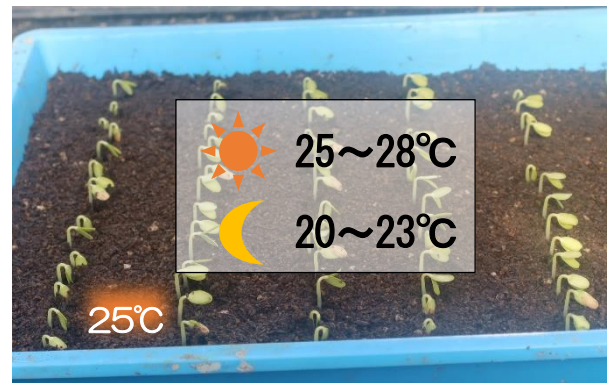


↑播種の仕方（種の向きを揃えると葉が重ならない）



## 発芽後の管理のポイント 徒長を防止しよう！

- ① 発芽が始まったら新聞紙を早めに除去する。
- ② 発芽が揃ったら、十分に光を当て、徒長を防ぐために地温を25℃に下げ、気温は昼間25～28℃、夜間20～23℃を目安に管理する。



発芽が揃った様子→

## 鉢上げのポイント

- ① 鉢用土に十分灌水し、スムーズな活着のため地温を25～27℃確保する。
- ② 箱播きの場合、鉢上げ適期は発芽揃いの翌日、根を切らないよう丁寧に行う。
- ③ 鉢上げが遅れると活着が悪く根量も少なくなるため、早めに作業を行う。
- ④ 鉢上げは、鉢土の地温が25℃程度となる温暖な日中に行う。



苗の堀上げ



鉢上げ作業



鉢上げ後の灌水  
※根元に灌水

### 播種時の失敗事例

- × 地温が低過ぎる (13℃以下) ⇒ 発芽の遅れやバラつき
  - × 地温が高過ぎる (35℃以上) (日差しが強い場合は特に注意) ⇒ 発芽不良
  - × 土壌の過湿、乾燥 ⇒ 発芽不良。種皮かぶり、生育遅延・バラつき
- 地温計で必ず確認

育苗期の環境や苗質は、定植後の生育に大きく影響します。  
細やかな管理で生育の揃った丈夫な苗を作りましょう！

◆農作業中の事故を防ぐため、時間に余裕を持ち「農作業安全」に努めましょう。

問い合わせ先：

庄内総合支庁 農業技術普及課 TEL：0235-64-2103  
酒田農業技術普及課 TEL：0234-22-6521

作成：庄内砂丘メロン産地強化  
プロジェクト会議